

2023 年 10 月 13 日

第四期外部評価委員：原田園子、中野孝幸、辻 洋、由本陽子

2022 年度における大学各組織の諸活動及び大学全体の自己点検・評価活動を評価いたしました。各委員による評価結果は活動計画評価報告書（A 表及び B 表）に記載しております。

全般的に、自己点検・評価活動は順調になされていると確認できます。概ね、各組織の活動は PDCA サイクルにのっており、自己点検・評価の説明記述はより整理され、具体的なものとなり分かり易くなっている場合が多くなりました。さらに、各組織の自己点検・評価に対する自己評価委員会及び大学企画評価会議の点検・評価がより丁寧になされています。

しかし、個々の組織による自己点検・評価の在り方や説明記述について、今後の検討課題としていただきたい点がありますので、以下に挙げさせていただきます。

1. 組織によって計画実施内容の具体的な記述、根拠資料等において、ばらつきが見られます。特に同じ学部でも、二学科間で差異が散見されます。この指摘は、今までにも外部評価委員から何度かありましたが、残念ながら改善されてはおりません。
2. 広報活動や規程の改正などについてですが、計画通り実施されたことのみを述べ、その効果についての具体的な記述や分析がほとんど示されていません。例えば、志願者の減少を改善すべく実施された諸活動について、実際の志願者数増には繋がっていないにもかかわらず、計画実施の実績のみで良い評価がなされていることには違和感があります。翌年度の計画立案に向けて、実施されたことの結果分析は重要です。
3. 教育研究環境の整備についても、潤沢な研究費の支給や研究時間の確保、また、様々な支援制度の制定等が実施されていることは必要な研究支援ですが、その効果、すなわち、教員や大学院生の研究成果にどのように影響しているか、についての記述がありません。点検・評価項目の「教育研究環境の適切性についての点検・評価」（8.06）については、教員や大学院生の業績を根拠資料とした評価が必要と思われます。
4. PDCA サイクルが同じ段階を繰り返し回っている委員会活動がみられます。計画の実施結果が意図した通りに良い成果を上げれば、それでよし、と終わらずにその成功結果の分析をし、より質の高い活動を目指して次年度の計画立案をすれば、上向きのスパイラルとして回っていくのではないのでしょうか。

次に、第四期外部評価委員会として三年の任期を終えるにあたり、大学の全般的な教育研究活動や自己点検・評価活動について、あらためて気づき考えてみましたことを述べ、提案もさせていただきたいと思います。

- （1） 各種の広報物、HPなどを見ても、この数年で大学の教育研究活動の可視化は相当

進歩しており、学生アンケートを時系列で見ると学生からは評価されてきていることが分かります。さらに、大学の広報活動に対する外部の声の把握に努め、高校側との交流時に把握した評価内容等を、広報成果として取り上げ、点検・評価してみると良いと思います。

- (2) 教育研究活動の可視化の先にあるのはナレッジの質の向上です。大学はとりわけ知識産業ですから、教育研究のナレッジの質こそが競争力の源泉です。時の流れと共に陳腐化するナレッジの質の向上には、教員、学生が共に形式知にとどまらず、ゆらぎを大切にする活動により、どれだけ多くの暗黙知が現場に溢れるようにするかが、大学の生き残りをかけるべき時代にあっては極めて大事なことを考えます。そのため、ナレッジの質の向上策の一つとして「他流試合」の促進と組織へのフィードバック施策を全学で展開されるよう提案したいと思います。国内外の学会への査読論文投稿の増大、国際交流の多様化、多彩な地域連携活動、企業との共同研究、外部資金の獲得、他大学との合同プロジェクト、NGO、NPOとの積極的交流等のほか、学内においても学部学科間の共同研究、横断型プロジェクトの推進など、次期中期計画の策定に際して重点的に取り上げていただきたいと思います。

以下はより具体的・技術的提案になりますが、

- (3) 年度計画毎に、神戸女学院大学の強みを活かすのか(S)、弱みを克服するのか(W)、チャンスを活かすのか(O)、あるいは、脅威を克服するのか(T)等の分類をつけて、全学でそれらのバランスがどうなっているかをKPIとして継続的に監視すれば、大学の活動とその成果を別の側面から点検できるのではないのでしょうか。
- (4) “～年度取り組み”の項目が、“～年度の重点項目と計画”に必ずしも対応していないので、今後、前年度に作成された“重点項目と計画”と当該年度の実施済み“取り組み”の項目を合わせれば、重点項目がどう達成されたかがより明確に点検できるのではないのでしょうか。
- (5) また、全学で設定した“重点項目”については、それが分るように各組織の計画に注記し、重点項目が各組織に展開して計画されているかどうかを横串的に点検できるようにするのはいかがでしょうか。
- (6) 組織によっては、当該年度計画がどの中期計画に対応しているかを本文中に明示していますが、このようにしてあると、中期計画に沿った年度計画を立案していることが分かり易いので、この記載方法を全学に取り入れてはいかがでしょうか。
- (7) 自己点検・評価活動の全体像を図示化して、全教職員にこの活動の意義の理解と有効活用を更に深化する一助にしてはいかがでしょうか。

以上、いっそう活発な教育研究活動と、より効果的な自己点検・評価活動へのご参考となれば幸いです。

神戸女学院大学の更なる実りある諸活動を期し、益々のご発展をお祈り致しております。